

国際会議の場で若手医師が出来ることを考える ～CMAAOに参加させて頂いて～

淀川キリスト教病院 産婦人科 後期研修医 柴田綾子

このたび日本医師会 JDN(Junior Doctors Network)のメンバーとして CMAAO(アジア大洋州医師会連合)の第 29 回マニラ総会に参加させていただきました。

29th Confederation of Medical Association in Asia and Oceania and 5th Council Meeting (CMAAO)のテーマは”Health Database in information Society”でした。

Health care database の商業利用活動が急増している中で、まず第一に患者情報の保護をし、そしてデータベース利用には患者の利益が最優先されるという原則を守るために、世界・アジア諸国がディスカッションをしながら枠組みを創っていく過程を垣間見ることが出来ました。

一番学んだことは「現代の医療は日本国内だけで完結していない。私達の臨床現場は、究極的には世界各国、そしてアジアとの関係性の中で成り立ち、お互い影響を受け合っている。」ということです。

自国の中だけで議論していても、結局は現状の一部しか見えていないということ。

世界そしてアジアの各国からの影響を日本の社会・医療システム・臨床現場が受けている、ということは忘れてはいけないということです。

そして、国際社会では自分の国の主張だけを叫んでも通用しない、各国のメンバーとの地道な交流の積み重ね、相手の国の状況を理解しようとする行為が大事なのだと知りました。

国際現場では、国ごとに、医療のレベルが大きく異なります。しかし、国際的なルールや枠組みは少数の国だけで決めても全く意味を無しません。事情の異なる国々が、それぞれの状況・違いがある中で、より多くの国が参加できるルール・枠組みを創っていくことが重要です。

自国の意見や理想だけを主張しても他の国はついてきません。

相手の国の現状についてまず理解すること、相手国と人と人の交流をし顔の見える関係性を築くこと、そしてディスカッション・ナゴシエーションをしながら、ルールを構築していくこと、それを積み重ねていくことが求められます。

そのために CMAAO を含めた国際会議に参加していくこと、そこでオフィシャル・アンオフィシャルも含めて各国のキーメンバーとの顔の見える関係性を創っていくことが国際社会と協働するために必要なのだと学びました。

日本はアジア・世界の中でも経済的にプレゼンスの大きな国の 1 つであり、国際社会でのリーダーシップも期待されています。

将来的には、日本の若手の医師の中に、上記の事を理解し、アジア・世界各国と実りある関係を創っていく人材が必要となります。

今回、始めてこのような場に参加させて頂き、自分なりに私達若手医師が国際会議の場できることを考えてみましたのでご紹介致します。

1. まずは挨拶をし、自分(自分達)の存在について相手(国)に知ってもらう

\* (会話の種になることを期待し)漢字などを入れた日本風の名刺を作成

\* とりあえず目が会った人に挨拶をし名刺を渡すようにしました

\* 他の国の方は自国のお土産などを会議の休憩時間に配って

交流のキッカケにされていました。シャイな方などにはオススメだと思いました。

2. それぞれの国の現状、そして国際社会でその国の誰がキーパーソンなのかを知る

3. WHO, CMAAO が今何に取り組んでいるのか、これから何に取り組もうとしているのか知る

4. 国際会議での交流の方法(挨拶の仕方・プレゼンの仕方・しゃべり方・立ち振るまい)等を先輩の姿から学ぶ

\* AMA president の Dr Robert Wah のプレゼンテーションの仕方は、話し方のスピード・トーン・ジェスチャーともに説得力に溢れ大変勉強になりました。

インターネット等にありますので、機会があれば是非聞いてください。

5. 参加できなかった同世代の人達に経験をシェアできるように言語化を行う

このような事を意識しながら参加すれば、たとえ初参加であっても何かを学んで持ち帰ることができると思います。

私は今回 CMAAO に参加させて頂いたことで、自分たちの臨床現場を下の下から支える土台を創っているのが、このような国際社会での地道な活動なのだを知ることが出来ました。

日本の若手医師の方々には是非、このような場に積極的に参加し、国際社会における日本のあり方について考えて欲しいと思いました。

最後になりましたが、このような機会を与えて頂きました、日本医師会の横倉会長、石井先生、関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。